

# 個育てサポートしろくま

法人理念	利用児童、ご家族の考えを尊重しそれぞれの状況に応じたサービスの提供を基本理念とし、あたたかな雰囲気の中で児童が自分らしくはつらつと過ごせる場所を提供する。また、親御さんが安心して子供を預け育児への負担を軽減し子育てを個別的にサポートする。			
支援方針	◇乳幼児から児童・成人へと継続した支援を行う ◇1日を通してお預かりし支援を行う ◇専門的な医療行為が必要である子どもの支援を行う ◇保護者さんの心のゆとりを確保する ◇個性と社会を繋ぐ支援を行う			
営業時間	9時00分から18時00分まで	送迎実施	有り（要相談）	
支援内容 (5領域をご家庭での困りごとを中心に支援の組み立てを行っています。)				
健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
<p>○偏食があり食べられるものが少ない 発達段階に合わせた食事形態を意識しながらどのような形状であれば食べられるのか模索していきます。また、お友達と一緒に食べる事で食事に対する楽しさを実感してもらえるような支援を行います。</p> <p>○睡眠時間に偏りが有る 来所後、傾眠傾向や倦怠感などが見られる場合は午睡を促します。一日の中で決まった午睡の時間を設けており、疲れた体をやすませて午後の活動に移れるよう配慮しています。</p> <p>○衣服や靴の着脱が苦手 一人一人の状態に合わせ、スタッフが声をかけをしたり介助したりしながら向上を促します。できた喜びを共感しあい、自分でやりたい、自分でできたという気持ちを育みます。</p> <p>○身辺自立が整わない 場面に応じ、バスタオルを畳んだり、自分のお荷物を片付けてもらう、お友達と一緒におもちゃの片付けを行ったり、自分で出来るように一つずつ声掛けや介助を密に行っています。</p> <p>○トイレトレーニングが進まない しろくまでは、午前の活動の前、午睡の前、午睡後、午後の活動前、帰宅の前にトイレに行けるように促しています。子どもの状態に合わせてお子様がトイレに行きたいタイミングで行けるように配慮しています。オムツ交換を行う場合にも男女で別れ、下着やプライバシーゾーンが見えないよう配慮して行っています。</p>	<p>○障害ゆえに歩くことが難しい 1人1人に合わせた計画を立て、その子のペースで楽しく身体を動かせるように支援します。</p> <p>○感覚に過敏さや鈍麻さがある。 粘土やスライムを触る、水の冷たさを感じるだけでなく、時には戸外に出て風の流れや太陽の光を感じたり、様々な感覚を取り入れながらパランスが取れるように支援していきます。強すぎる感覚を好む場合には柔らかい刺激で満足できる様促したり、強い刺激でないと反応しにくい場合にはポイントごとに強い刺激を取り入れられるよう促していきます。</p> <p>○身体の動きにアンバランスさがある まず好きな動きから取り組んでいきます。スタッフと1対1でボールを投げたりキャッチしたり、音楽に合わせて身体を動かしたりしながらお子様の無理の無い範囲で整った動きが出来るよう支援していきます。</p> <p>○歩き始めが遅い 下半身だけに注目せず、上に伸びる動きや腕を前に出す動きなども取り入れ、全身の発達を促していきます。その中でつまり立ちや伝い歩きが出来る機会を増やし、歩行へと発展していけるように支援していきます。</p> <p>○体幹保持が苦手 物を持った状態で音楽に合わせて動いたり、トランポリンや鉄棒等に取り組み体幹を鍛えています。また、椅子に座る際に補助具を使用し正しい姿勢を保ちながら体幹を鍛えています。</p>	<p>○集中力が続かない 達成しやすい目標を掲げながら静かな環境でも集中しやすい環境設定を行います。その中でビジョントレーニングやワークシートなどに取り組み集中力の向上を目指します。</p> <p>○人見知り・場所見知りがある 子ども一人ひとりに対し担当スタッフがついており、まずは担当スタッフとの信頼関係を十分に築いて頂きます。それから担当スタッフと一緒に活動に参加してみたり担当スタッフと別室で過ごしてみたり、少しずつ集団での活動に入っていけるよう促していきます。</p> <p>○こだわりが強い こだわりも一つの個性、特性として受け止めていきます。どういった部分にこだわりがあるのか日常生活にどう影響しているのかを確認しながら、日常生活に支障がある場面では「タイマーが鳴ったらおしまいにして、またあとでしようね」など具体的に区切りをつけていき、徐々に「こだわらなくても大丈夫」「無くて大丈夫」と思えるような支援を行います。</p> <p>○気持ちの切り替えが苦手 まだやりたかった気持ちや終わりがたくなかった気持ちを受け止め、どうしたかったのか子どもの気持ちに共感したり代弁したりします。また、活動が切り替わる場面では事前に絵カードを見せながら声掛けをしたり、ビジュアルタイマーを使ったりしながら聴覚と視覚に働きかけながら切り替えの場面を分かりやすく提示していきます。</p>	<p>○伝えたいけど言葉に出来ない 大人が気持ちを代弁して相手に伝えたり、大人と一緒に自分の気持ちを確認し一緒にお友達に伝えたりします。</p> <p>○意味のある発語が無い まずは子どもの「話したい」という気持ちを引き出せるよう、周りのスタッフが積極的に話しかけていきます。子どもが一生懸命話しかけてくれた時には喃語であってもその場を大切に受け止め、子どもの気持ちを代弁したり「あれは〇〇だね」など具体的に正しい発音を伝えていくことで発語を促していきます。</p> <p>○自己表現が苦手 朝の会や帰りの会、食事の場面など挨拶が必要な場面ではまずは小さな声で挨拶をする、頭を下げる、手を合わせる等出来る所から自己表現していけるように支援します。その後はスモールステップで少しずつスタッフが仲介や代弁しながら大きな声で挨拶出来るようになったり、お友達に自分の気持ちを伝えたりしていけるよう支援していきます。</p> <p>○一方的な関りになってしまう スタッフが仲介しながら具体的に話す順番を示したり、スタッフと個別に関わりながら「相手のお話を聞く力」を育みます。そのうえで、どうしたら自分の気持ちが相手に伝わるのかを子どもと一緒に考えまずはスタッフと一緒に実践しながら、徐々に適切な関りが出来るように支援していきます。</p> <p>○言葉に繋げる 喃語から一語文から二語文、さらに三語文と発達していきます。言葉の獲得のためには言葉を聞き取るための聴力、発声するための運動能力、言葉を理解するための知能などが複合的に必要になってきます。語り掛けや絵本の読み聞かせだけでなく、全身運動や知育遊び等さまざまな取り組みをしながら言葉の発達を促していきます。</p>	<p>○感情のコントロールが難しい 個別課題などでSST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れています。自分の感情に気付けたり、自分の気持ちを言葉にしたり出来るように支援していきます。</p> <p>○適切な距離感を掴む事が難しい パーソナルスペースが広すぎたり狭すぎたりするお子さんに対しては、なぜそうなってしまうのか原因を考えた上で「これくらい離れても大丈夫だよ」や「ここまで近づいて欲しいな」など視覚的に示しながら声掛けをして適切な距離感を伝えていきます。また、生活の中では床に線を引いたりあらかじめ置いてある椅子に座ってもらったりしながら、具体的に「適切な距離感」を示していきます。</p> <p>○保育園や幼稚園でお友達とのトラブルが多い 通われている保育園幼稚園とも連携しながら、どういう背景でトラブルが起きしまうのか、トラブルが起きた時はどのような対応が望ましいのかなど確認し合い対応の仕方を統一していきます。トラブルが起きてしまった時には、その時どのような気持ちだったのか紙に書いた絵カードを使ったりしながら気持ちを整理していき、そのときが子ども自身がどう対応したら良かったのかをスタッフと一緒に考えていきます。</p>
家族支援	○子育て経験のある専門スタッフもそろっております。子どもとどう接したらよいか分からない、とにかく話を聞いてもらいたいなど、どんな些細な事でもご相談ください。		移行支援	○保育園幼稚園や小学校での進級進学についての移行支援 ○他の施設を併用利用している場合における利用先との連携
地域支援 連携支援	○年に一度、保護者さん、施設長、町内会長などが集まり報告会を行います。 ○随時必要に応じた支援が出来るよう関係機関と連携を取っていきます		職員の質の向上	○定期的な研修や、カンファレンスを行い、その都度振り返りや反省を行っています。
主な行事など	春の遠足、秋の遠足、水遊び、お散歩、ハロウィン、クリスマス会、初詣、書初め、節分 等・・・			

上記以外にも毎日様々な支援を行っています。